

優しさをありがとう



～海の勇者 クヌッセン機関長～

和歌山県日高・美浜商工会青年部連携事業  
デンマークチームを歓迎・応援する会  
～ヨハネス・クヌッセン機関長ゆかりの地より～

Johannes Knudsen

# 「助けなければ！」

## 嵐のなか瞬時の判断、祈りむ

1957年2月10日、神戸港へ向けて航海中だったデンマーク船エレンマースク号は日ノ御埼灯台西の沖合で火災を起こしている船を発見しました。火災を起こしていたのは、徳島県の機帆船「高砂丸」で、炎に包まれた船の中では乗組員が火のついた板切れなどを振り回して、助けを求めながら船上を逃げまどっていました。その日は、風速20メートルを越す風が吹く大荒れの天気で、マースク号から下ろされた救命艇が救助に向かいましたが思うようにいかず、そればかりか強い風のためマースク号さえも暗礁の多い方向へと吹き流され、非常に危険な状態になっていました。そこでマースク号は救命艇を回収し、自船の危険を避けるのと救助をしやすいするため、高砂丸の風上に寄って救助に向かうことになりました。すでに、高砂丸で確認できるのは船長らしき一人となっており、近づいたマースク号から投下された網を頼りに海に入り、なんとかマースク号から下ろされていた網ハシゴにたどり着くことができました。疲れきった体で必死になってはしごを登っていった彼は、あと少しというところで力尽き海へ転落してしまいました。船上から一斉に「ワッ！」という悲鳴が沸き上がったその瞬間、そばで見守っていたクヌッセン機関長が、救命ベルトを締め付け海に飛び込んでいきました。その後、クヌッセン機関長は救命ブイを渡そうとしましたが、荒れ狂う波の中うまくいかず、ついには二人の姿が波間に消え、見えなくなってしまいました。マースク号は再び救命艇を出動させましたが、強い波がポートを襲ってエンジンが壊れてしまい、その救命艇も沈んでしまいました。





Johannes Knudsen



# なしく海に散る…

当時の乗組員は、そのときの様子を「救助をもつとも近いところで見ていたクヌッセンさんは、何もためらうことなく『助けなければ!』と、とっさの行動に出たのだと思う。我々はただ、祈るばかりだったが、なにぶん大荒れの海面。クヌッセンさんの必死の苦闘もかなわなかった...。」と語っています。

悪夢の夜が明けた次の日の朝、クヌッセン機関長の遺体とマスク号の救命ボートは日高町の田杭港周辺で発見されました。昨夜の苦闘を物語る機関長のライフジャケットや胴体に大きな裂け目のあるボートに人々が大騒ぎしているところへ、当時の御坊警察署長が到着し、昨夜のマスク号とクヌッセン機関長の話が説明されました。それを聞いた地元の人たちは一同に驚き「あの嵐の中で、日本の船員さんを助けるために海に飛び込んだ方なのか。そんなこと人間のできることではない。この人は神様だ!」と流れる涙をこぶしでぬぐいながらひざまづき、その手はいつのまにか合掌に変わっていったと今でも伝説のように伝えられています。

その後、遺体の漂着した日高町田杭地区では、あまりにも勇敢なクヌッセン機関長の行為に感動を受け、せめて彼の魂を弔いたいと、その地に供養塔を建て住民が交互に清掃し、常に新鮮な花を供えて絶やすことなく慰霊の気持ちを捧げ続けています。また、美浜町日ノ岬の高台には、彼の勇気と愛にあふれた行動をたたえた顕彰碑と胸像が建てられ、「クヌッセンの丘」として今も末永くその冥福と航海の安全が祈り続けられています。



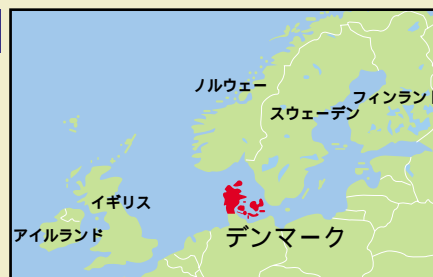


# デンマークチームを応援します



## デンマークチーム

欧州のエリート集団といわれ、今回がW杯出場3回目の強豪。前回のフランス大会（98年）でベスト8、FIFAランキング（今年2月）では19位。  
和歌山市内でのキャンプは県営紀三井寺陸上競技場などを練習場所とし、選手は和歌山マリーナシティのホテルに宿泊する。



## 試合日程

6月

1日

デンマーク  
VS  
ウルグアイ

試合開始 18:00 ~  
場所 ウルサン(韓国)

6月

6日

デンマーク  
VS  
セネガル

試合開始 15:30 ~  
場所 テグ(韓国)

6月

11日

デンマーク  
VS  
フランス

試合開始 15:30 ~  
場所 インチョン(韓国)

## 和歌山滞在予定

5月20日~27日 プレキャンプ

5月

26日

## 国際Aマッチ

デンマーク VS チュニジア  
場所 県営紀三井寺陸上競技場

がんばれ！デンマークチーム

# Kam så !! DBU's Landshold

今回のワールドカップで、デンマークチームが和歌山をキャンプ地として選んだことに深い縁を感じております。これを機会に私たちはもう一度クヌセン機関長の遺徳を振り返り、また次の世代にも伝えていくことができればと、このリーフレットを作成することにしました。

なお、作成にあたりましては武市匡豊氏のご厚意により同氏の著書「宿願の旅路」を参考にし、また貴重な写真などを使用させて頂いております。

デンマークチームを歓迎・応援する会  
ホームページ

<http://www2.w-shokokai.or.jp/knudsen/>